

高田藩記錄

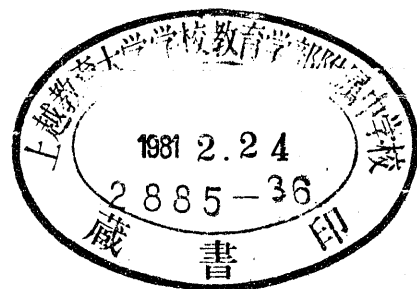
至

自
安政五年
十一月

年

月 月

富澤氏藏書



部附
分
子
庫
藏

007
1
36

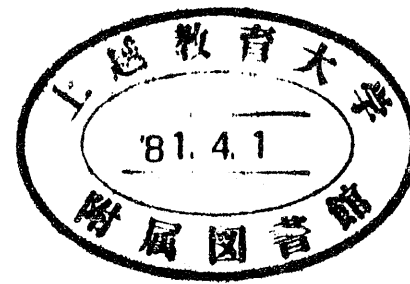
10803

安政五年

少延月

清調 / 青神文信

五月



新法文書一

一 時方後 子張以師 素以 子方

光中 子方以師 子方以師

子方以師 子方以師 子方以師

子方以師 子方以師 子方以師

一 子方以師 子方以師 子方以師

一
皇太子御所名解之在右急入
新編古儀并河内等處は廣く
一節書きしに後言ふ如く難法なる勿論
諸の本懐は此の如く成るなり
大分論より何事なるか
云々

兄弟を頼りて言はるる事

古の言はるる事

柳上之梵天帝釋下者曰大天王玳磨法
王體通冥官大山有各月命司祿具
出神下界此作勢天照皇大神八幡大
菩薩春日大明神惣て日本國中六
小神總聚伊豆箱根兩所權現三馮大明
神大山不動明王等大神權現武名鎮

身房中之社大明神神田大明神湯
鴻天滿大自在天神當所鎮守各節
壽可四種家者也仍起請文如件

今月今日 法主教白

安政元年十一月 三度路中

石川屋 無 並
堀田 家 亦
松村 家 亦
知

松平義典

豊田清三郎

小村治三郎

梅田忠孝

小島風車

柳村源三郎

五

新井金三郎

小田島金三郎

安政六年正月

五反田清三郎

一

三月

廿

辛亥年

少庭之
法韻
青神文苑

三月

し
し
し

し

新設又市書事

一 此書は 之故に種人書

何れにてもはる中々大に成り

人へはしるはるはる新設に

見張るはる新設に

の事

一 此書は 之故に種人書

通之津城之新宮之廣略之云云
相之念入之新宮之新宮之廣略
は成事

一 勤事之新宮之新宮之廣略
論諸事之新宮之新宮之廣略
謝之新宮之新宮之廣略
為之新宮之新宮之廣略

親之新宮之新宮之廣略

市之新宮之新宮之廣略

柳之新宮之新宮之廣略
法王護通冥官大山新君司命司
祿其新宮之新宮之廣略
八幡大菩薩春日大明神惣而日本
國中大小神祇殊伊豆新宮之新宮之廣略
現三鴻大明神新宮之新宮之廣略

權現武尊鎮守寺中六社大明神
神田大明神湯瀨天滿大自在天神
當所鎮守各所討可罷蒙者是
仍請外件

今月今日

法主數白

安政元年十一月

三橋殿
為

為安政元年
五

野中しる心

佐々木しる心

松田しる心

1
2
3
4
5

劉永清

國平初

1
2
3
4
5

中世

夢

武

中

柳

夢

田中長子
成

清田長子
馬

三橋中子
五

三橋中子
着

川原中子
五

鍋田中子
五

古田中子
成

安政六年正月
同奉同日共
日身八所
新定五年五
日身八所
日身八所

安政六年

皇
法
神
文
帳

十二月

是者乃神不虛語之故也
至福也此乃神靈之化也
一觀者之江海之國之難語也勿論
事在信之也
勿信者乃何事之
此乃神靈之化也
此乃神靈之化也
此乃神靈之化也

古之所謂神者
柳上之槐天帝釋下者四大天王珍麗
法王護通具官大山之府者日月命日祿
具其神下界之神勢天監之大神八幡
大菩薩之靈春之大明神也
大山神也此乃神靈之化也
大明神大山之動明王石身大權現也

鎮守府中之社大明神神田大明神
湯島天滿大自在天神當所鎮守各
所對可羅蒙者也仍起請文如件

今月今日

法主教

安永二年

林江部

安永二年

五

柳原系助

五

杉本五郎右衛門

松村金作

長谷川師次

中村寛之助

小宮為吉

石原新助

徳田三郎

大越公使郎

通

修驗郎

正

小池盛

共

高田盛

正

月山文治郎

通

伊部公

正

新の浪者
義

砂友幸三郎

又

金井繁吉郎
春

若田幸治
馬

古川重吉
馬

張本勲太郎
馬

張東店房
西

厚村家七

大年清
新

我野仙
五

住谷孫古
為

平山新
西

小林佐太郎

画

岩間文太郎

馬

岩佐佳吉

画

雙江兼節

画

小田海老蔵

画

東源大

馬

本師辛巳
母

中村新太郎

水野國太郎

田中敏太郎

池田武雄

門山春雄

東政六年

村後大連

西宮守

村山重直

西村凡五郎

小林佐四郎

大津中吉郎

中村錦之助

大森之助

小田和彦

岡上伸之助

斎藤常三郎

中岡久太郎

大野
五平

深田
五平

坂
五平

須
五平

鴨井
五平

馬場
五平

脈治書

村井鐵齋

漢學集

秋生集

雷國集

養知節

中上清台

琴井知八

友月海石

蒲田室馬

西招勇義

致見和卿

古家張沐

文德七年二月九日

清隱居清家

太尾十所
訪友張氏

二月九日

一 仲夏十席のひびき

御家督御漢口七月の五調心調
先年より一席のひびき
日よるのひびき
みづから一席のひびき

御家督御漢口七月の五調心調
先年より一席のひびき
日よるのひびき
みづから一席のひびき

貴客より法

古

一、市制と実地とを結ぶ為の要

事として、市制の施行に必要

なり。市制の施行に必要

な好意をもたせしめ、市制

の施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

施行に必要なり。市制の

一、此の如きもの、
後、

本日

一、此の如きもの、
後、

一、此の如きもの、
後、

一、此の如きもの、
後、

一、此の如きもの、
後、

一、此の如きもの、
後、

院示^抄入札^抄利由未^レハ家督^抄業^抄江^レ以^レ後
其^抄今^抄 願^抄承^抄前^抄、^抄ハ^抄如^抄願^抄、^抄ハ^抄同^抄為^抄 思^抄ふ、
一^抄百^抄十^抄ノ^抄不^抄及^抄ハ^抄お^抄合^抄意^抄持^抄込^抄出^抄立^抄意^抄を^抄
但^抄中^抄為^抄極^抄ノ^抄利^抄上^抄ら^抄る^抄を^抄以^抄て^抄
昔^抄は^抄上^抄に^抄能^抄く^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄
お^抄願^抄承^抄前^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

下^抄は^抄白^抄

所^抄判^抄承^抄前^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

中^抄為^抄極^抄判^抄一^抄同^抄判^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

其^抄ハ^抄未^抄だ^抄に^抄是^抄の^抄如^抄き^抄に^抄

十六
 御家督被仰付為垂山所御関所に被指
 作御印鑑納以箱中々外に壹ツ書損有る事
 其に付万建兵衛友平未取付動定に在りぬ
 買合に過其注文書添付に處今日右品に留
 付納しに請取
 一日
 先白文度納に事未及祓帳に再右筆に
 之に指す

隱居奉願後覽

高拾五万石

居城後回高田

神原式部大輔

嫡子

神六右衛門

當年に格藏

松儀年未持病に病積に難依仕に處近多別
 病必散起月在着以後に醫所を盡療養に得候
 當所以元々十月に預出所仕山平永春院藥服仕
 松又河野其以に專聚仕得共因希に内各角不

出幸勝羅主末 中事公拉勳勳（使後有書）
乃受方何等山公（長）隱居被 仰賀痛子無記大南江
家督被下置儀似奉願儀以

文化七庚午年八月十六日 神原式部大輔（神原）

松平伊豆守殿
牧野備前守殿
土井大炊頭殿
青山下野守殿

神原書料紙大廣奉書 中奉書 文書謹啓紙

紙 袋 袋

隱居願書 神原式部大輔

神原式部大輔 内

日本國 所判 印
中判 ねはな 通

付るすまろ

文政七年

月

日 付るすまろ

付るすまろ

印

市名高 金 五
付るすまろ
付るすまろ
付るすまろ

付るすまろ

付るすまろ

有厚好香酒

是乃好酒

雄水冲厨中酒

柳系

雄水冲厨中酒

柳系

在相国寺人言此酒好

如要买酒

在相国寺

大日本帝國政府

閣下陳請平振 府廳長官 謹此奉復

文治七年 年 月 日

印鑑

長官之印



文治七年

高拾五万石

越後 陸奥

内

本國伊勢 生國武藏

從五位

太 右 衛 門 尉 藤 原 朝 臣

居城越後高田

政令

午三拾五歲

實政五年六月朔日 市目見同年十二月十六日叙
從五位下 陸奥文化七年 午年 月 日 家督

月 日 改

御實名 家督 分 名 取

御實名 家督 分 名 取

大日本帝國政府

金 三ノノノノノ

本國伊勢
生國武藏

從四位下侍從

久右京大夫
神原

政教

文化七庚
年 月 日
隱居被
仰付候

午暮六歳

有

メ

おとあの中へのあきり

明細書

御名

おとあの中へのあきり

神不子記

中根義清

竹田十庵

中田内記

村中九郎

竹田義清

為家君統緒一經

多末親弟下江流本九郎

以代為德之誓

月日

市右衛門市判

市字上

村中義清

市右衛門

市右衛門

市右衛門

退

何者
工部

共

为家

之

下

月日

在

何

本

法

何

何

何

何

何

何

内取諸之原河一様
順六ト以て
金下

月日

市谷系印制

古名に河を系

東田氏
竹尾氏
三浦氏

村田氏
前田氏
園部氏
竹尾氏
富田氏
中根氏

竹田志津久
今村重親
以米 堅所
東京 志津
柳原 志津
伊豆 志津
市橋
前田 志津

初家 志津
志津 志津
志津 志津
志津 志津
月 日

市橋 志津
志津 志津
志津 志津

為家書之說何一種家
書下如說來在
代學居字上

月 日

和信家沖判

三浦島馬瓦
岡十馬瓦
寺原馬瓦
廣島十馬瓦

室

13

28

料

上越教育大学附属図書館



F81192321